

# AMDA

多様性の共存

## ジャーナル

特定非営利活動法人アムダ (AMDA)  
<http://amda.or.jp/>  
 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構  
<http://www.amda-minds.org/>  
 特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター  
<http://amda-imic.com/>

### AMDA グループ 市民参加型人道支援外交 第5回 円卓会議に出席して

AMDA 大槌健康サポートセンター  
 プロジェクトオフィサー

大久保 彩乃



今回、初めて岡山に行かせていただきました。そして、私にとって震災後初めて国内での旅となりました。

岡山に着いた時、岩手との気温差に改めてビックリしました。また普段なにもない風景を見慣れているせいか、都会的だと思いました。

8日のAMDA グループ円卓会議で、震災当時のことや、AMDA 大槌健康サポートセンターの事をお話しさせていただきました。皆さんの前で話すのは初めてでしたので、とても緊張しました。ですが、皆さん真剣に聞いて下さいました。皆さんのご支援のお陰で、今の私があり、健サポがあると心から感じ、そしていま皆さんに直接感謝を言わせていただく機会になっていると思うと、思わず言葉が詰まってしまいました。

これから大槌町民の皆さんに元気になっていただけるよう、精一杯頑張らせていただくと共に、この経験を伝えていきたいと思いました。そして、大槌の皆さんと一緒に少しずつ前進していきたいと思っています。これからもよろしくお願ひします。

2012年7月25日 VOL.35 第262号 定価550円  
 発行/AMDA 〒700-0013 岡山市北区伊福町3-31-1  
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717  
 E-mail:member@amda.or.jp  
 郵便振替:01250-2-40709 □口座名:特定非営利活動法人アムダ

2012年  
 夏号



緊急救援 救える命があればどこへでも

## AMDA グループ第5回円卓会議を開催



7月8日(日)岡山国際交流センター国際会議場にて、AMDA グループを構成する4団体が一同に会して活動を紹介する「AMDA グループ第5回円卓会議」を開催しました。前週発生したバングラデシュ洪水への被災者緊急救援活動がバングラデシュ支部により初動が始まり、会議当日日本からの派遣が決定し、AMDAの活動報告の中で派遣者となる竹谷和子参与を紹介する場面もありました。

#### プログラム (敬称略)

1. **アムダ国際福祉事業団**  
 報告 的野秀利 理事長  
 複合災害の被災地「フクシマ」
2. **AMDA 国際医療情報センター**  
 報告 小林米幸 理事長  
 電話相談を通じた在日外国人の健康と外国人を診療する医療機関を支援する21年の軌跡
3. **AMDA 社会開発機構**  
 報告 田中一弘 海外事業部長  
 アジア・アフリカ・中南米6カ国の事業の現場から

#### 4. AMDA 活動報告

東日本復興支援事業報告  
 大槌町出身在住 大久保彩乃  
 プロジェクトオフィサー 大政 朋子  
 フィリピンミンダナオ島洪水 緊急医療支援活動報告  
 倉敷フィリピンサークル 大山マジョリー  
 海外連携事業報告 国際部長 難波 妙  
 AMDA 高校生会活動・東日本復興支援同世代交流報告  
 高校生会 中島硯美  
 AMDA フードプログラム・AMDA 野土路農場(岡山県新庄村)有機農業報告  
 プロジェクトオフィサー 柴田 宙樹  
 梅雨の合間の晴天となった日曜日。約40人の学生を含む130人の参加者は、AMDA グループの様々な活動を熱心に聞いてくださいました。自ら被災者であり現在AMDA 大槌健康サポートセンターの常勤スタッフの大久保彩乃プロジェクトオフィサーは、熱心に耳を傾ける支援者を前にして報告するにあたり感極まった場面もありました。左記に大久保オフィサーを紹介します。

### バングラデシュ洪水被災者に対する緊急医療支援活動開始

6月下旬から降り続いた豪雨のため、バングラデシュ北部のメグナ川を中心とした広い範囲で洪水被害が発生。バングラデシュ災害管理情報センターによると、この洪水・土砂崩れによる死者数は131人。102万人(36万世帯)が被害を受けている。日中の気温が30度以上と高いことから、今後、衛生状況の悪化や伝染病の発生などが懸念されている。

この状況を受けて、7月7日AMDA バングラデシュは、被害の大きい北部のウパジラ(Upazila)郡クリグラム(Kurigram)で、ニーズ調査を行い、その後、浄水タブレット10,000個、ORS/経口補水液5,000本等の医薬品の他、女性用のサリー・男性用ルンギ、非常食用の米や糖蜜など食糧品等3000人分を購入。8日派遣が決まった竹谷調整員は10日バングラデシュビザを受け取りその足で成田からダッカに向かい、11日深夜に医師や保健師等6人で構成されるAMDA バングラデシュチームに合流し12日には被災地クリグラムに向かった。

被災から 16 か月が過ぎて

AMDA 大槌健康サポートセンター  
プロジェクトオフィサー 鍼灸師 佐々木賀奈子

震災から一年四ヶ月、本当に濃く、月日の流れが早く感じられた日々でした。皆様のご支援のお蔭で今まで生活してこれました。

AMDA 大槌健康サポートセンターは単なる鍼を施術する場だけではありません。運動（ストレッチ・ヨガ・ウォーキング・骨盤矯正）療法や手芸教室（編み物・ビーズ・吊りし雛・手作りモップなど）郷土芸能を伝える（鶏子舞ストレッチ）四季折々の郷土料理教室、お茶会、園芸療法（野菜・花）をしています。

私達が企画した事に町民の方々が参加するだけでなく、いらした方々がこんな事がしたい、やったらいいのではと発案し、それぞれ得意分野で教え伝える側になっています。自分は先生なんてやれないとか、自信がないなんて話していた方々が、次か



筆者右端 AMDA 健康サポートセンターで

ら次と人に必要とされる喜びや、その場で手仕事をしながら、生活の近況報告をする和やかな時間を過ごしています。各教室を終えて帰る時に、次は来週はと小さな目標ではありますが皆様のキラキラした笑顔が私達スタッフに心の栄養を与えてくださいます。

小さな目標を持ち毎回積み重ねているうちに、メンバーさんも増えて、運動療法参加者は体重、脂肪率、BMI 値もダウンしています。手芸教室の方々はお楽しみ市で作品を販売しています。四季折々の郷土料理教室では、震災で突然に母親、祖父母を失い、お節句事の料理や昔から大槌に伝わる郷土料理の作り方が解らないから教えて欲しいと始まったものでした。作っている過程や、作り終えて試食しながら亡くなった方の想い出話をしています。

今の治療室は狭く一台しか診台がおけず予約も二週間待ち状態で皆様には御迷惑をお掛けしています。また各教室のメンバーも増えてサロンが手狭になっているので、今年中に増築拡張の予定です。

東北、岩手では高齢者が多く慢性症状、不定愁訴が多く、鍼灸マッサージ治療が必要とされています。高齢者は我子、孫と一緒に暮らしたくても離れざるを得ず、仕事を亡くした若者は大槌を離れざるを得ない



施術中の筆者

のです。サポートセンターを拡張したら鍼灸師育成の場になればと期待しております。また各教室で人に必要とされる喜びや感動する方々が増えて欲しいと思っております。

先月数日休診した際に携帯が何度かなり、ギクッリ腰だとか、捻挫したとか、どこにいるのか、いつ大槌に帰って来るのかという声がありました。

震災前もただ大槌にいて毎日治療し、畑で取れたハーブでお茶する日々でした。震災で特にそこに大槌に居るだけで居続けるだけでいいんだと改めて思っています。

辛い、苦しい、悔しい、悲しい想いをいっぱいただけに人に優しくなれたような気がします。

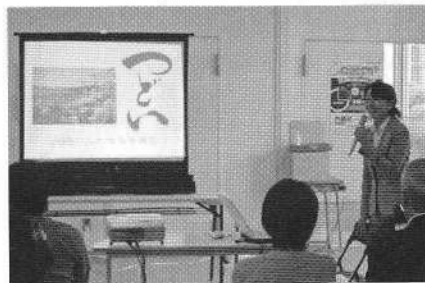
\*\*\*\*\*

佐々木鍼灸師は、ご自身津波にのまれ、自宅、治療院とも流され、現在は仮設住宅に暮らす、生死の境を経験した被災者の一人で、AMDA の事業のローカルイニシアチブをけん引する一人です。

新団体「つどい」の発足と  
コミュニティ活動への期待

6月2日(土)午後、AMDA グループ代表菅波茂講演会に続き新団体「つどい」の発足式が、大槌町中央公民館会議室にて開催されました。

昨年3月11日には仙台の医療福祉系専門学校で講師を務めていた元持幸子さんとは AMDA 本部職員が学友であったことから、仙台市内や岩手県大槌町や釜石市内での緊急救援活動の調整役として元持さんに AMDA チームに入っていた以来、大槌町出身の元持さんは無くてはならない存在として地元の様々な調整業務をこなしてくれました。元持さんが地元の調整業務を全般的に担ってくれたお蔭で、「AMDA 大槌健康サポートセンター」という拠点を設立するに至りました。多くのご支援者の皆様からお寄せいただいた浄財が形になりました。ここでは、ご自身自宅も鍼灸院も流された鍼灸師の佐々木賀奈子さんが、鍼治療を中心に仮設住宅に住まう被災者の方々の健康増進のための活動を心血注いで行っ



発足式で説明する元持さん

一方、地域コミュニティが分断され、人々が生活再建にむけて集い語らう場の確保の重要度が増す中、このコミュニティ活動の部分を以前から NPO 活動に造詣の深い元持さんが企画を立ててくれました。その元持さんが、岩手県の NPO として団体を立ち上げることになりました。地元の復興に広く寄与したいというその思いが、地元根付いた被災者の方々に寄り添う活動になることを AMDA は期待するものです。

コミュニティ活動を、「つどい」が AMDA から業務委託をうけ実施する活動費として、発足式の中で、500 万円の贈呈式も行われました。

新団体「つどい」を  
設立して

元持 幸子 大槌町出身  
前 AMDA 東日本大震災復興支援事業  
プロジェクトオフィサー

震災の影響を受けた大槌町民が心身の健康と安心感、地域における「喜び」と「繋がり」を持ち、まちと暮らしを再構築する活力とその仕組みを生む事を目的とし、新団体「つどい」が発足しました。

人々が集う事から生まれる支え合いが、生活再建に向けた「ひと」の力・「地域」の力を引き出すきっかけとなり、生活再建・自立に向かう原動力になります。「つどい」は、大槌町にしっかりと根を下ろし地域の人たちと共に、健康なまち、魅力あるまちを育てていきます。

震災直後から現在に至るまで、皆様の心温まるご支援をたくさんいただきましたことに感謝いたします。

## 屯田兵計画—被災地病院からの提言

県立大槌病院 副院長 黒田 継久

大槌を含め、三陸は医療過疎地でした。大槌病院もこの10年ほどで常勤医7人から3人に減っています。そんな中、東日本大震災で大槌は大きな被害を受け、大槌病院だけでなく、開業医の診療所もすべて被災しました。大槌病院を含め、ほとんどの先生方が仮設診療所で医療を再開していますが、十分な医療とはいえません。

これまで多くの先生方に医療支援に来ていただきました。その方々は、大槌の惨状を目のあたりにして現状を理解してくれたと思いますが、復興へはまだまだ遠く、被災者の方々を理解することまでは出来なかったと思います。しかし、医学雑誌や学会でのシンポジウムを聞いていると、支援者側から見てうまく支援が出来たと言う話が多く、大槌の現状を考えると違和感を覚えます。被災の影響はまだまだ続いています。

「なぜ自分は生き残ってしまったのか」、「一緒に津波に流されれば良かった」という患者さんが居たり、また、血圧が高い患者さんが増え、不眠の患者さんも多い状態です。糖尿病の患者さんが、1年以上経って再来し、HbA1c10%以上になっているということもありました。さらに、中心市街が無くなったために、震災の影響が無いはずの山間部の方々にも影響が及んでいま

す。また、役場・中学校・大槌病院といった被災ビルは取り壊しにならず残っていますし、家の基礎部分はそのまま残っており、それらを互換処理しないと再建は出来ない状態です。鉄道の復旧も見通しがつきません。

しかし、マスコミ報道も少なくなり、学会へ出かけるとだいたい復興が進んだでしょうと言われる。このままでは、被災地の経験・課題が、次に震災・津波被害が予想される東海・東南海地震地域の先生方に伝わらないのではないのでしょうか。

そこで、数年間被災地に住み、被災者の方々と接し、直に震災への備えと復興を考えて貰うプロジェクトが必要と考えました。

東海・東南海地震被災予想地域出身の方々に、被災地の病院へ研修医、または後期研修医として来ていただき、医療を研鑽すると共に、医療の復興を手伝い、医療・行政の対策・問題点を知って貰い、そして、実際に震災があった場合には、支援チームの中心になって貰うようになれば良いと思



います。長期に研修することにより、岩手県のみならず、宮城県・福島県の医師不足の解消にも繋がります。

震災被災地の支援を行いたいと考える医師と同様に医学生も被災地のために役立ちたいと考える方が数多く居ると思いますが、被災地とつながりが無い状況では何をしたら良いかわからない、だから何も出来ないと言う状態だと思います。

AMDAさんのように災害支援のノウハウを知っている組織に被災地希望研修医を仲介募集していただけましたら、医学生の方々も応募しやすいのではないのでしょうか。被災地研修医募集病院との調整など困難もあると思いますが、次期震災へ向けて、震災初期・復興期への対処を知った医師を育てるのも被災地病院の大切な仕事だと思います。

今回の被災経験が次の大災害時の被災を減らすことに少しでも役立てば幸いです。

### 屯田兵計画概要案

1. 東海・東南海地震被災予想地域出身で有ること
2. 東日本大震災被災地に近い研修指定病院に勤める
3. 研修指定病院校舎に住むのではなく、できる限り被災者の多い地区に住む
4. 被災者支援の会には積極的に参加する
5. D-MAT 研修をできる限り受ける
6. 出身地被災の際は救援指導を取る

## AMDA 被災地間相互交流事業： 大槌北小福幸きらり商店街との交流について

気仙沼復興商店街 南町紫市場 坂本 正人

今回のAMDAの被災地間相互交流事業で、初めて気仙沼以外の地域を見ることができました。特に、被災して仮設商店街を立ち上げたという、同じ立場の者同士の交流は、相互の良い面および悪い面を改めて見直す機会となりました。被災地間交流は、他の被災地の状況を知ることで新たな気付きもあり、また同じ立場の者同士が連携していくということにおいても大変意義あるものだと思います。現在は、ボランティアや観光などで仮設商店街を訪れる人も多いですが、今後は減少していくと考えられます。その中で、「大槌北小福幸きらり商店街」さんとは、お互いの物産の販売、ご当地グルメの推進、交流イベントなどを通して、商店街の活性化とともに更なる町の復興のために連携していきたいです。



筆者：左から3人目 復興食堂 / 大槌町にて6月2日



気仙沼市南町紫商店街を練り歩く大槌町伝統芸能の白澤鹿踊り

### 大槌町教育委員会様より感謝状

大槌高校への被災新入生制服支援に対して、6月2日大槌中央公民館での菅波理事長の講演後、サプライズで大槌町教育委員会伊藤教育長様より感謝状をいただきました。



## カンボジア マラリア予防プロジェクト

カンボジアでは、AMDA カンボジアのリティ医師が中心となり IEC 事業とマラリア予防プロジェクトを実施しています。

カンボジアは人口の 8 割が農村部に集中しており、カンボジアにおいても毎年雨季になると何人もの方がマラリアで尊い命を落としています。命に関わる危険な感染症であるマラリア撲滅は、カンボジア政府の最優先事項の一つにもなっています。

IEC (Information, Education and Communication) 事業では、マラリアに感染した場合の対処方法が書かれた T シャツ、性感染症に感染しないための基礎知識を記したチラシやパンフレットを作成しました。これらの資料は AMDA カンボジアで研修を受けたボランティア

が中心となり、プノンペン大学や高校に、また地元 NGO や村の医療ボランティアを通じてコミュニティに配布しました。

コミュニティではその他、マラリア予防方法の認知度アップ、マラリアを発症させる危険行為の回避や監視強化などを積極的に行いました。コミュニティに向いて出張セッションを行い、今までに 1 万人近い人々に予防教育を行うことが出来ました。

支部内では 2011 年度第四半期にプロジェクトディレクターを常勤スタッフとして雇用した結果、現場での観察とモニタリング、スタッフのプロジェクトオリエンテーション、教育、技術サポート等がより強化され、プロジェクトの取り組みも迅速かつ有効に行えるようになり、データのクオリティも向上しました。



### マラリアとは？

マラリア原虫を持つ蚊（ハマダラカ）に刺されることで感染するマラリア。主として森林地帯、タイ、ベトナムとの国境周辺部で一年を通じて発生する感染症であり、約 90% が熱帯熱マラリアで、残り 10% が三日熱マラリアである。熱帯熱マラリアは治療が遅れると命にかかわる怖い病気である。

参照：外務省 在外公館医務官情報

## AMDA 高校生会の活動について

今年度、昨年発生した東日本大震災における岩手県大槌の復興に向け、高校生としてできる支援、高校生だからできる支援を目標に活動をしました。AMDA 高校生会は県内の高校生が集まり 4 月から 8 月までは 20 名、途中 3 年生が引退し昨年 9 月以降今年 3 月まで、新たなメンバーも加わり 17 名で活動をしました。ほぼ毎月定例会を持ち、AMDA の活動や東日本大震災の様子等について派遣されたスタッフにお話を聞くなどの学習会を通し、高校生会としてどのような活動ができるのか、話し合いを重ねました。主な活動内容は大槌高校および大槌 AMDA 高校生会との交流を深めることが中心となり、7 月には大槌の高校生会 2 名を招き交流会をおこないました。大槌と岡山でのそれぞれ高校生会の活動報告のなかで理解を深め、またその後は昼食用にちらし寿司を

作り会食をしたこともお互いの距離が近くなったと思います。

また毎年参加している岡山大学医学部の学園祭に AMSA の協力で参加をし大槌高校へのメッセージボード作成を呼びかけ、来場者にたくさんの協力をいただきました。この活動も多くの方々に AMDA の活動や被災地についてご理解をしていただいていたチャンスにもなったと思います。

そして 3 月には AMDA 東日本大震災絆コンサートを開催しました。大槌高校吹奏楽部を中心に就実高校・中学吹奏楽部の方々が出演されました。高校生会もステージで活動報告をしたり、当日の準備や会の司会進行等、運営にあたり充実感に満ちた、しかも同世代の交流ということで大変盛り上がり、熱気あふれるすばらしい音楽会になりました。高校生どおしだけでなく来場された人達にも音楽を通して感動を分かち合えたと思います。コンサート後高校生会の取り組みについて振り返りをしました。その際に出た感想の中で「みなさんの演奏がとても感動的で AMDA の活動のすごさを感じた」、「自分の係の仕事にとても緊張したが、演奏しているみなさんが楽しそうにまた堂々としている姿に勇気づけられ、自分も頑張らなくてはと思った」「被災された高校生に会い、かわいそうと思う



AMDA 事務局で、絆コンサートの準備作業

のではなく自分たちも行動して少しでも復興のためになることをすることが大切だと感じた」など多くのことを感じ、学んだと思います。今後 AMDA 高校生会も東日本大震災復興について、交流プログラムを継続することでより絆を深めていきたいと思っています。

### AMDA 高校生会とは

高校生の個人の自由意思でつどう AMDA のボランティアグループです。1995 年中国雲南省地震緊急救援活動において、けがをした児童支援や小学校支援を行ったことを契機に設立されました。様々な学校の生徒が集まり、その年度ごとに活動内容を自主的に決めていきます。全体で集まるのは、月に一度程度の日曜日です。新メンバー大歓迎です。

※お問合せ、お申し込みは

AMDA ボランティアセンターまで  
member@amda.or.jp



絆コンサート会場で

# 加速する民主化と経済発展のミャンマーを再訪して

AMDA グループ代表 菅波 茂

6月10日(日)～16日(土)の日程で、菅波茂 AMDA グループ代表がミャンマーを訪問しました。7年ぶりのミャンマー訪問では、AMDA グループがミャンマーで活動を開始して以来の歴代の2人の保健大臣と現保健大臣 Dr. Pe Thet Khin に面会する機会に恵まれ、また、齊藤隆志 / 在ミャンマー特命全権大使を表敬訪問しました。その他、プロジェクトを実施している中央乾燥地(パコク郡、メティーラ郡)を訪れ、受益者の人々や現地スタッフと交流しました。

ミャンマー中部の貧しい乾燥地帯に位置するパコクとメティーラを6月訪ねた。AMDA が関与してから17年。現在はAMDA 社会開発機構が3万人の農民を対象に健康増進プログラムを実施している。メティーラでは、1999年にAMDA が寄贈した総合病院の子ども病棟を訪問。検査機器は無く聴診器のみの診療である。旧首都のヤンゴンにある病院に比べて地方の病院の診療機能の充実が求められている。保健省は地方の病院機能の充実を目標の一つにしている。メティーラは第二次世界大戦で岡山の多くの将兵が英印軍の戦車の前に斃れたところである。現在も交通の要所でミャンマー陸軍の重要な駐屯地である。

今回、一番お会いしたかったのが亡きヤダナウーちゃんのご家族である。メティーラから車で30分かかる不便な水田の中に家があった。ヤダナウーちゃんは94年6月生まれの当時9歳の女の子。心臓弁の一つが変形する先天性心疾患で、運動すればチアノーゼが出るまでに悪化していた。2004年2月に岡山に手術のため招聘し、岡山大学附属病院にて佐野俊二教授の執刀で弁形成手術、当初予定より早く退院できるほど手術は成功し、病状は改



ヤダナウーちゃんの写真を囲むご家族と

善。帰国後はマンダレーとメティーラの医療機関で定期的を受診しつつ、勉学に励んでいたが、2011年1月に急死した。「看護師になって佐野先生のもとでもっと勉強したい」と語っていたことが忘れられない。家族から微笑んでいる彼女の写真をいただいた。ご両親に約束した。「現在、計画しているインドの御釈迦さんが悟りをひらかれたブッダガヤの地での小児心臓医療施設が完成すれば、この施設に彼女の写真を飾ります」と。「ヤダナウーも喜んでいるでしょう」と92歳の祖母に言われて気持ちが軽くなった。

ミャンマーには1週間ほど滞在した。新首都のネピドーも地方も訪問した。ヤンゴンで宿泊したホテルではベトナムのホーチンミン市との合同ビジネス会議が開催されていた。急速な民主化と経済発展を迎えているミャンマーでは都市と地方の格差がますます激しくなることが予想される。アジア全体が激動している。日本では感じられないダイナミックさである。格差が開けば開くほど「救える命があればどこまでも」のAMDAのスローガンが求められると予感した。AMDAのミャンマーにおける活動を支援していただいている方々に厚くお礼を申し上げたい。



Dr. Pe Thet Khin 保健大臣(右)と

齊藤大使(中央)と

## 2012年度 AMDA 神奈川支部総会

(6月24日神奈川県大和市小林国際クリニックにて)

AMDA 神奈川支部副代表 松本 哲雄

- 2011年度事業報告
  - 5月3日、タイ・バンコクのプミポン空軍大学付属病院医学部の女子学生2名に奨学金を授与。(対象者は10年度と同じ)
- 2011年度会計報告
- 2012年度役員(任期2年目に当たり昨年度と同じ)
  - 代表: 小林 米幸
  - 副代表: 松本哲雄・篠原真理子・柘植靖子
  - 会計: 岩淵満江、会計監査: 武井紀子
- 2012年度事業計画
  - 昨年度、神奈川県海外技術研修員を推薦したが補欠になり結果的に招聘出来なかったが、今年度も招聘出来るように準備を進めている。また、対象者を今までバンコク病院に絞ってきたが、系列病院にも広げる。
- その他(報告・情報交換・等)
  - 新会員紹介
  - 今後の活動について・・・アイディアを募る。

AMDAでは、「食は命の原点」という認識から、今年度から有機農業の実践によりアジアの農業とつながるAMDAフードプログラムを、岡山県真庭郡新庄村野土路地区で開始しました。中国山地の源



AMDA 野土路農場でのアヒルの放鳥6月6日

流の村である新庄村はたぐいまれな清らかな水に恵まれた、人口約1000人の村です。100%有機農業で、アイガモではなくアヒルを用いて、AMDA野土路農場で耕作をはじめました。5月には、昨秋の収穫米のセシウム等放射性物質や農薬に含まれる化学物質の残留検査の結果が届き、いずれも残留ゼロで、安心しています。6月6日には、アヒルの放鳥を地元の保育園児たちと行いました。「地域おこし」とアジアの山岳少数民族との「国際相互扶助ネットワーク」構築の両輪が動き始めます。

## 2012年4月～6月の動き

<p>&lt;講演&gt;                  4月15日                  4月18日                  4月21日                  5月8日                  5月11日                  5月11日                  5月14日                  5月28日                  6月1日                  6月2日                  6月7日                  6月8日                  6月8日                  6月24日</p>	<p>友の会研修会 / 地域活動への積極的参加と社会貢献                  摂南大学経済学部 / 東日本大震災救援活動の経験からみた地域医療保健・防災活動の意義                  岡山県下5年一環看護教育校 5校交流会 / 「各国の医療事情」について                  明るい社会づくり運動美作地区協議会30周年記念講演会 / 東日本大震災に対する AMDA の支援活動                  平成24年度総会ならびに研究協議会 / 災害看護の実際について                  東日本大震災救援活動について                  美容組合岡山支部衛生講習会 / 東日本大震災の状況について                  RNNボランティア講座 基調講演                  第27回保育を高める研究集会 / 救える命があればどこへでも                  新団体「つどい」発足記念講演 / 救える命があればどこまでも～AMDAの人道支援3原則と相互扶助                  福浜熟年大学 / AMDA の活動理念                  岡山西南ロータリークラブ例会                  第11次通常総会記念講演 / 東日本大震災復興支援活動について～3.11より一年間を振り返って                  医療業界の現状と医学的な知識について</p>	<p>玉野地区ろうきん友の会                  摂南大学経済学部                  創志学園高等学校                  明るい社会づくり運動美作地区協議会                  岡山県高等学校教育研究会看護部会・岡山県高等学校看護教育協会                  清心女子高等学校                  岡山県美容生活衛生同業組合 岡山支部                  RNN (人道援助宗教 NGO ネットワーク)                  社会福祉法人 日本保育協会 岡山県支部                  AMDA 大槌クラブ                  岡山市立福浜公民館                  岡山西南ロータリークラブ                  (社) 岡山県計量協会                  西日本ゲルマニウム療法業協同組合連合会</p>
<p>&lt;大学講義&gt;                  4月10日                  4/13～6/29 (毎金曜日)                  4/16,23,27,5/12,14                  4月17日</p>	<p>玉野総合医療専門学校 保健看護学科「災害看護・国際看護・特論」内の講義として                  神戸女子大学 国際ボランティア活動論                  福山平成大学 2012年度看護学部4年生「国際援助と保健資源」                  玉野総合医療専門学校 保健看護学科 国際看護・災害看護・看護特論</p>	<p>多くの皆様からのご寄付本当にありがとうございます。恐れ入りますが、名前記載の誤り等がありましたら、事務局までお知らせください。よろしくお願ひします。</p>
<p>&lt;イベント&gt;                  4月25日                  4月28日                  4/24～5/6                  5月12日                  5月12日                  5月25日                  6月2日                  6月6日</p>	<p>東日本大震災被災者支援 山岸ルツ子 里帰りチャリティーピアノコンサート                  AMDA玉野クラブ総会、バングラデシュ報告会                  たなごころのこころ (備前焼チャリティー)                  ノリ+アダ ジョイント・リサイタルX開催                  第6回 AMDA 兵庫支部総会シンポジウム 東日本大震災支援活動の今までとこれから                  Rising Star/AMDA 福山クラブ共催 東日本大震災復興支援 Rising チャリティーライブ                  新団体「つどい」発足式 (岩手県大槌町)                  AMDA 野土路農場 (新庄村) 有機農業あひるのヒナ放鳥</p>	

## シニア世代のボランティア

# バングラデシュ訪問記

AMDA 玉野クラブ 岡崎 幸生

4月1日から6日間、AMDAバングラデシュプロジェクトフィールド見学に参加しました。私は4年前ベトナム、カンボジアへ観光旅行に行き発展途上国の生活状態を目にしてカルチャーショックを受けました。カンボジア旅行後、クラブ長の竹谷さんよりAMDA玉野クラブ発足の話がありクラブ立ち上げに喜んで参加させて頂きました。以前より竹谷さんからバングラデシュの街や生活の様子を聞いており、今回のバングラデシュ訪問に対し非常に関心を持ち参加しましたが、それは私の想像をはるかに越えるものでした。



まずダッカに入り人や車が多く、車は特に日本車(トヨタ)が多い事も印象的でした。又、高層ビル、道路の整備も出来ている所もありますが、地方では全く違った状況に驚き、また生活の格差を感じました。我々日本での生活とはあまりにもかけ離れていることに対し、今私達に何が出来るのだと

かと考えさせられました。

学校訪問では多くの子供達と交流する事が出来、言葉の壁はありましたが身ぶり手ぶりで話しながら遊んでいるうちに心が通じ合い、とても豊かな時間を共有出来たと感じました。一人ひとりの生き生きとした表情がとても印象的でした。

教育、医療、食生活、環境衛生と多くの問題がありますが、現在実施されているAMDAバングラディッシュ支部の活動により少しずつ発展していくことを期待します。

訪問した日々を思い出しながら今私に何が出来るのか答えは出ません。ただお金、物の提供ではなく、人と人が交流する中でお互いに意識の変化をしなくてはならないと思います。そして生活の質が少しでも向上していく様役立てればと感じる次第です。70歳を過ぎた私にとって今回の訪問は多くのことを考えさせられました。今後微力ではありますが息の長い支援が出来ればと考えています。



## センドン台風 緊急救援 フィリピン医師会から表彰

2012年5月18日に行われた第105回フィリピン医師会年次総会、第15回アセアン加盟国医師会会議(MASEAN)において、フィリピン医師会より、12月に発生したセンドン台風被害の北ミンダナオ、カガヤン・デ・オロ市、イリガン市の緊急救援活動に対して、AMDAが表彰されました。

千人以上が死亡し、多くの家屋が倒壊した犠牲者の方々に対する人道支援のためにカガヤンデオロ市やイリガン市にAMDA本部職員ヴィーラバーク氏と共に活動に当たったAMDA菅波代表に代わりAMDAインターナショナル顧問、元フィリピン医師会会長であるチェア医師が表彰式に出席しました。

(写真中央：チェア医師)

多くの方々からご寄付をいただきました。一部をご紹介します。



オムロン(株)岡山支店様より



倉敷アカデミックウィング様より



高松農業高校メッセンジャー高農様より



玉野市立東見中学校生徒会様より



(医)なかの歯科クリニック様より



ノリ+アダ ジョイントリサイクルX様より

たなごころのこころ様より  
備前焼個展によるご寄付→



## 第27回

# 日本国際保健医療学会 27th Annual Meeting of the Japan Association for International Health 学術大会

みはなさない、その命!

2012年11月3日(日)~4日(月)

岡山大学 津島キャンパス  
創立五十周年記念館

<http://www.okayama-u.ac.jp/profile/kenken-an-index.html>

大会長 菅波 茂 (AMDAグループ代表)

### 参加費

一般 参加費 7,000円(当日) 9,000円  
学生 参加費 大学 4,000円(当日) 5,000円  
専攻 参加費 1,000円(当日) 1,500円

<http://amda.or.jp/2012/index.html>

### 開催地

岡山大学

津島キャンパス

創立五十周年記念館

<http://amda.or.jp/2012/index.html>

11月3日、大会会長 菅波茂の講演もあります。詳しくはHPを。  
<http://jaih2012.web.fc2.com/index.html>